

「クリニカルラダー『レベルⅠ』」に対応した教育プログラム

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価
倫理的感応力	ケアリングの姿勢	①ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる ②ケアリングの重要性が理解できる ③ケアリングの主要な概念をもとに行動できる （知ること／共にいること／誰かのために／可能にする力を持つこと／信念を維持すること）	・講義（周産期領域におけるケアリングとは） ・OJT／カンファレンス等（自らの実践事例の振り返り）	・カンファレンスへの参加度や発言内容からの評価 ・事例を振り返ったレポートを評価
マタニティケア能力	妊娠期・分娩期・産褥期新生児期の診断とケア／分娩期の配慮の視点	【情報収集】 ①妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を自律して収集できる ②不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集できる ③指導を受けながら、アセスメントに必要な情報を整理できる ④正しい用語、適切な表現で記録できる	・OJT（場面の再構成）	・場面の再構成をレポート
		【アセスメント／問題（ニーズ）の明確化】 ローリスク ①妊産褥婦の正常経過および新生児の生理が理解できる ②支援を受けながら、収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる ハイリスク ①周産期の代表的疾患（切迫流産、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤）の病態生理および検査、多胎妊娠のリスクについて理解できる ②妊産褥婦および新生児の異常への対処と援助が理解できる 【診断】 ①必要に応じて支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切な診断名をつけることができる 【計画立案】 ①妊産褥婦・新生児のニーズに沿って目標を設定できる ②妊産褥婦・新生児の状態、問題リスト、目標に一貫性がある計画を立てられる ③SWIHを踏まえた具体的な計画を立案できる ④支援を受けながら、妊産褥婦および家族参加型で助産計画を立案できる 【実践】 ①助産行為を行う前に必ず説明できる ②支援を受けながら、基本的助産技術が実施できる ③担当した対象について、助産ケア計画に基づき、基準や手順に則り安全確実に助産ケアを実践できる ④助産ケア基準・手順に沿って正しい用語・適切な表現で記録できる ⑤クリニカルパス使用の場合、パスに沿って実践できる CTG装着と判定 ①CTGによる胎児心拍モニタリングの適応が理解できる ②正しく装着できる ③各ガイドラインに基づいた判読ができる（異常も詳細に判別できる） ④モニタリング結果に応じた報告・対応ができる 【評価】 ①助産実践における疑問点を質問し、解決できる ②支援を受けながら、根拠に基づき自分の行った助産を評価できる ③継続する問題について計画を修正できる ④助産実践を要約して記述できる	・OJT（仰臥位以外の分娩） ・CTGに関連した研修受講 ・OJT（左記内容について場面の再構成／CTG装着と判定〔CTGの判読／実践場面での判断の振り返り〕／緊急時1次・2次救命措置の振り返り）	・レポートまたは技術のチェックを行う
専門的自律能力	教育	①継続教育プログラムに主体的に参加できる ②自己のレベルに合った、院内・院外の研修や勉強会に積極的に参加できる ③支援を受けながら、ローリスクを対象とした保健指導が実施できる（個別・小集団） ④教育・指導についての基本的事項を理解できる	・OJT（教育と指導〔患者教育および小集団教育〕） ・小集団指導（授乳指導、退院指導、沐浴指導）の原稿作成・実施 ・集団指導（母親学級1～4週）の原稿作成	・実際を評価 ・振り返り
		自己開発	①自己評価と他者評価を踏まえた自己の学習課題を考えることができる ②課題の解決に向けて必要な情報を収集し、解決に向けて行動できる ③学習の成果を自らの助産実践に活用できる	・キャリアカウンセリング／目標管理面接

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容
 ※表内 緑字：必須実践項目

		教育目的（ラダーの目標）	教育方法と教育内容	教育の評価	
専門的 自律能力	研究	①日常の行動の中で「なぜそうするのか」を考えることができる ②自らの関心に合わせて、院内・院外の研究発表会に参加できる	・外部講義（臨床で研究を行う意義／看護研究の方法〔基礎：実施を含む文献検索と文献の活用、データの収集と分析方法等〕）	・振り返り	
	コミュニケーション （対人関係）	①対象のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる ②対象中心のサービスであることを認識して接することができる（忙しさを自らの業務中心にならないよう努める） ③言語的・非言語的コミュニケーション技法を用いてコミュニケーションできる ④対象が納得できる説明を行い、同意を得られる	・講義（コミュニケーションの基本／具体的な対応） ・OJT・レポート（左記内容について事例を用いたレポート）	・振り返り（レポートやOJTにおいて、ラダーレベルに合った診断・行動・評価ができていないかを抽出して上司・同僚などと検討）	
	倫理	社会性	①職務規定を理解し、それを遵守して行動できる（遅刻・早退・無断欠勤をしない等） ②規定に基づき、速やかに報告・連絡・相談できる ③社会人また助産師としての自分の行動・言動に責任を持つことを理解できる ④助産師として、自分の健康管理の必要性がわかり行動できる ⑤助産師としてのアイデンティティをもち、その専門性・自律性を理解して実践できる	・講義（接遇・コミュニケーションの基本と具体的な対応／助産師としての専門性・自律性）	
		助産倫理	①ICM－助産師の国際倫理綱領、ICN－看護師の倫理綱領および日本看護協会－看護師の倫理綱領について、日常の助産実践に関連づけて理解できる ②倫理原則を理解できる ③助産実践は法的根拠に基づくものであること理解できる	・内部または外部講義（倫理原則）	
	管理（マネジメント）	安全	【安全管理・安全確保】 ①自施設における医療安全管理体制について理解できる ②インシデント事例や事故事例を速やかに報告できる ③インシデント事例や事故事例について、支援を受けながら経過を振り返ることができる ④インシデント事例や事故事例についての報告・記録方法がわかる ⑤周産期に起こり得る事故について、支援を受けながら予測でき対策をとることができる（新生児の取り違い、新生児の拉致、窒息、転倒・転落、やけど、盗難など） ⑥規定に沿って適切に医療機器・医療器具を取り扱うことができる ⑦与薬の原則を理解して実施できる 【感染予防】 ①自施設における感染予防管理体制について理解できる ②①に則って行動できる（スタンダードプリコーション、必要な防護具選択、衛生的な手洗い、無菌操作、清潔・不潔の区別、医療廃棄物規定に則った適切な取り扱い等） 【災害・防災管理】 ①自施設における災害・防災管理体制について理解できる ②部署の管理体制（消化設備、避難経路）などがわかる ③②に基づいて日常的に行動できる（病棟入口の戸締り、面会者の確認など） ④災害発生時の初期対応がわかる ⑤災害時、指示に従い、④の行動ができる ⑥定期的な災害訓練に参画できる 【情報管理】 ①自施設における情報管理体制について理解できる ②①に基づいて行動できる（記録、PC、パスワード、患者情報など）	・講義とOJT（周産期に特徴的なインシデントやアクシデント） ・講義とOJT（周産期に特徴的な感染対策） ・講義とOJT（感染防止の基本行動） ・OJT（災害対策） ・講義とOJT（薬剤管理〔含む毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤管理〕） ※周産期に必須のガイドライン 「産科医療補償制度」に関連する事項 「助産所業務ガイドライン」 「産婦人科診療ガイドライン」 「カンガルーケア・ガイドライン」	・講義は知識の確認、振り返り ・他は実際の場面での振り返り（チェックリストがあるとよりよい） ・シミュレーションでは、メンバーとして指示どおり動けるかをその場で確認
		経済性	①費用対効果を考慮して、物品を適切に選択・準備・使用できる ②対象の負担を考慮して、物品を適切に使用できる ③支援を受けながら、時間内に必要な助産ケアができる	・OJT（物品管理、コスト管理）	・振り返り
		リーダー	①施設および看護部の理念を理解し、行動できる ②施設および看護部の組織と機能を理解し、行動できる ③チーム医療の構成員としての役割を理解して協働できる（報告・連絡・相談ができる、事実を正しく報告できる） ④同僚や他の職種と必要なコミュニケーションをとることができる ⑤職種による考え方の相違を理解できる ⑥リーダーの役割を理解できる	・講義とOJT（メンバーシップ※）	

※表内 青字：学研オンデマンド研修内容
 ※表内 ピンク字：宮城県看護協会・院内研修内容
 ※表内 緑字：必須実践項目